

国土交通省・墨田区他後援

# すみだ耐震補強フォーラム2008

## 報告書

地震にそなえる、家造り



たいしん君

日時／2008年2月10日 日曜日 10：30～16：00

場所／墨田区曳舟文化センター レクリエーションホール

主催／墨田区耐震補強推進協議会

## すみだ耐震補強フォーラム 2008

### 参加団体一覧

#### 主催(順不同)

##### 墨田区耐震補強推進協議会

(構成団体: 東京土建墨田支部、社団法人東京都建築士事務所協会墨田支部、墨田建設業協会、墨田建設産業連合会、区内32町会・自治会、財団法人墨田まちづくり公社(事務局))

#### 後援(敬称略・順不同)

##### 国土交通省

安田学園高等学校

特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト

社団法人東京都建築士会

社団法人東京都建築士事務所協会

##### 墨田区

社会福祉法人墨田区社会福祉協議会

特定非営利活動法人平塚・暮らしと耐震協議会

全国建設労働組合総連合

#### 協賛(敬称略・順不同・アイウエオ順)

株式会社アクスエンジニアリング

有限会社アトリエ・A2

株式会社アンデン東京

株式会社五十嵐繁勝工務店

株式会社稲場建築設計

有限会社インサイドシステム

江戸川木材工業株式会社

大日向建設株式会社

岡建工事株式会社

株式会社岡本建築設計事務所

株式会社尾崎防水

笠貫一級建築士事務所

鹿島建設株式会社

株式会社角重

株式会社勝美工務店

上條建設株式会社東京支店

川島建築設計事務所

協同組合すみだ建築センター

グリルステーキ・エンジョイ

構造品質保証研究所株式会社

有限会社小島工務店

株式会社コバソウ

株式会社榊商店

坂田建設株式会社

株式会社佐藤総合計画

佐原 昭

三協株式会社

ジブラルタ生命株式会社

有限会社白ヒゲ住設センター

株式会社住宅構造研究所

J:COMすみだ(さくらケーブルテレビ株式会社)

J建築システム株式会社

株式会社慎設計事務所

新日鉄エンジニアリング株式会社

杉山建設工業株式会社

墨田建築設計協同組合

墨田区異業種交流グループ「すみだネット」

株式会社駿河屋

株式会社ソーゴー

大建工業株式会社

大正建設株式会社

株式会社太洋ビルシステム

タカラスタンダード株式会社

中央労働金庫亀戸支店

有限会社テクノブックス

酒処 つかさ

東京東信用金庫

東武ホテルレバント東京

東武谷内田建設株式会社

都祭建築構造設計事務所

樋田建設工業株式会社

有限会社鳴海建築設計事務所

野島木材株式会社

有限会社島山総合サービス

日野設備工業

株式会社フジタ

プラスU設計・診断 一級建築士事務所

株式会社プロデュース

前川建設株式会社

眞園 みほ(歌手)

丸勝建設株式会社

宗像建築設計事務所

株式会社森下工務店

有限会社山田建築

有限会社山田建築 有志

居酒屋 雪国

株式会社ユニバーサルインダストリー

有限会社渡部工務店

## 協 力(敬称略・順不同)

静岡県	焼津市木造住宅耐震補強推進協議会
寺六中央町会	梅若町会
八広二丁目親和町会	京島二丁目町会
本所二丁目町会	押上南町会
隅田中睦町会	菊川三丁目町会
千葉県立市川工業高等学校	墨田区老人クラブ連合会
医療法人財団健愛会すみだ共立診療所	特定非営利活動法人すみださわやかネット
株式会社日本映画新社	社会福祉法人墨田さんさん会
東京都交通局	東京地下鉄株式会社
東武鉄道株式会社	新東京タワー株式会社
新田印刷社	株式会社サンケイ広伸社
関東マツダ墨田店	株式会社構造システム
川下一級建築士事務所	株式会社岡本工務店一級建築士事務所
株式会社富士建築設計社	中島克彦建築設計事務所

・・・ たくさんのご協力ありがとうございました ・・・



### すみだ耐震補強フォーラム 2008 運営委員会

委員 長 佐久間輝雄(東京土建)  
副委員 長 稲場稔(事務所協会)／七岡剛(事務所協会)／和田栄治(建設業協会)  
委員 鈴木文雄(事務所協会)／大日向利之(東京土建)／一柵靖人(事務所協会)  
事務局 中島雄幸(まちづくり公社)／山極武久(東京土建)／栗橋宏(東京土建)／岡本博(事務所協会)  
運営事務局 東京土建墨田支部

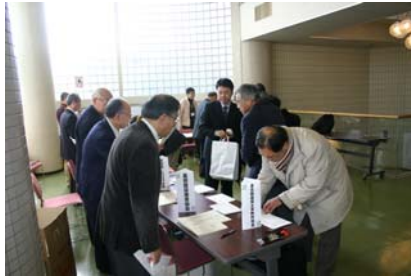
東京土建\_\_東京土建墨田支部／事務所協会\_\_社団法人東京都建築士事務所協会墨田支部／建設業協会\_\_墨田建設業協会／まちづくり公社\_\_財団法人墨田まちづくり公社

## 目次

1. まえがき .....	6
2. プログラム	
(1) 第一部	
①開会 司会__東京土建墨田支部 大日向利之 .....	7
②主催者より挨拶 墨田区耐震補強推進協議会会長 鳴海義一 .....	7
③静岡県の皆様のご紹介・勉強会 .....	7
『防災先進県 静岡県の耐震補強事例・工法勉強会』	
静岡県庁県民部建築安全推進室主幹 早津和之氏	
静岡県庁県民部建築安全推進室主査 池谷朗氏	
焼津市木造住宅耐震補強推進協議会理事 望月貞治氏	
焼津市木造住宅耐震補強推進協議会理事 小林修氏	
(2) 第二部	
①開会 司会__(社)東京都建築士事務所協会墨田支部 鈴木文雄・一桝靖人 .....	12
②主催者より挨拶 墨田区耐震補強推進協議会会長 鳴海義一 .....	12
③運営委員長より挨拶 東京土建墨田支部副委員長 佐久間輝雄 .....	12
④来賓よりご挨拶 墨田区区長 山崎昇氏 .....	12
国土交通省副大臣 松島みどり氏	
墨田区議会副議長 桜井浩之氏	
⑤活動報告 『地域の高校生が耐震診断』 .....	13
安田学園高等学校建築科 榎本吉晃先生・石井朋仁君・加藤恭平君	
⑥耐震補強関連映像の上映 .....	15
⑦耐震協の活動紹介 墨田区耐震補強推進協議会事務局 岡本博 .....	16
⑧パネルディスカッション『わが町の耐震補強__木造住宅無料耐震相談の取り組み』 .....	16
コーディネーター 特定非営利活動法人東京いのちのポータルサイト副理事長	
特定非営利活動法人平塚・暮らしと耐震協議会副理事長 木谷正道氏	
パネラー	
寺六中央町会町会長 木村忠氏	本所二丁目町会町会長 石倉一郎氏
梅若町会町会長 丸廣之氏	菊川三丁目町会副総務部長 山田悟氏
梅若町会総務 大野勝美氏	墨田まちづくり公社 課長 中島雄幸氏
八広二丁目親和町会町会長 岩井春治氏	
⑨墨田区より 『墨田区耐震助成事業の紹介』 .....	18
墨田区都市計画部 部長 渡会順久氏	
墨田区都市計画部建築指導課 課長 沖田茂氏	

⑩『住まいなんでも相談処』の紹介.....	21
(財)墨田まちづくり公社 まちづくりセンター課長 中島雄幸	
⑪出展企業紹介.....	22
⑫閉会	墨田区耐震補強推進協議会副会長
	墨田建設産業連合会副会長 伊川哲夫.....
(3)無料耐震相談会／耐震補強のいろいろ展示会.....	23
3. アンケート集計結果.....	24
4. お礼のことば.....	29





## 1. まえがき

拝啓 向春の候、ますますご清栄のことと存じます。平素の御厚誼に深く感謝いたします。

さて、過日開催されました「すみだ耐震補強フォーラム 2008」の際には関係者の皆様にお力添えをいただきまして、今年で3回目となる今回も200名を越える参加をいただき、盛況の内に行うことができました。ご賛同いただきました各団体、企業の皆様に厚く御礼申し上げます。また、墨田区長様はじめ、国土交通省副大臣様、墨田区議会副議長様、関係者の皆様には、力強いご支援やお話をいただきましたことを心より御礼申し上げます。

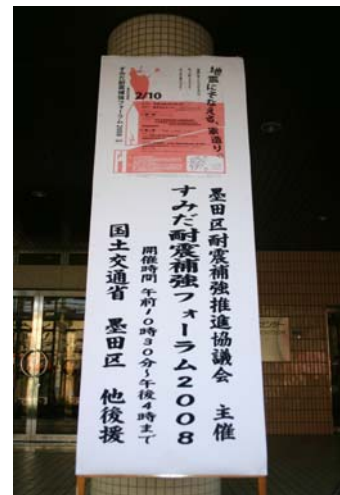
今回のフォーラムでは、静岡県庁・焼津市木造住宅耐震補強推進協

議会様による耐震補強の実践的勉強会、地元安田学園高等学校との耐震補強共同実習による教育参加への成果、そして各町会さんとの協力関係と今後の取り組みへの意欲等、ご報告をお伝えできたのではと考えております。このフォーラムをきっかけに木造密集地域の耐震補強工事が進みますことを願って止みません。そして当会としましては、少しでも多くの耐震補強工事のお手伝いをさせていただき、ひいてはまちづくり、地域のコミュニティづくりにお役に立てればと願っております。今後共変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。まずは、略儀ながら書面をもちまして御礼申し上げます。

敬具

平成20年2月吉日

墨田区耐震補強推進協議会  
会長 鳴海 義一



## 2. プログラム

### (1) 第一部

「防災先進県静岡県の耐震補強事例・工法勉強会」



大日向（司会）：はじめに主催者の墨田区耐震補強推進協議会会長であり、社団法人建築士事務所協会墨田支部支部長の鳴海義一より開会の挨拶をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

**鳴海会長** 皆さん、おはようございます。本日はお忙しい中、この勉強会にご参加いただきありがとうございます。今日は耐震補強の先進県であります静岡県庁県民部建築安全推進室、焼津市木造住宅耐震補強推進協議会の皆様をお迎えしての耐震勉強会です。講師の先生の話をしっかり受け止めて、耐震補強の推進に一步前進して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



大日向：

講師の紹介

静岡県庁県民部 建築安全推進室主幹 早津和之氏  
静岡県庁県民部 建築安全推進室主査 池谷朗氏  
焼津市木造住宅耐震補強推進協議会理事 望月貞治氏  
焼津市木造住宅耐震補強推進協議会理事 小林修氏



**早津氏** 昨日の雪で新幹線が運転するかどうか心配していましたが、何とかこちらに辿り着けてほっとしております。本日は墨田区さんの発表があるということでやってまいりました。今日はよろしくお願いいたします。  
**池谷氏** 今日はこのような盛大な会にお招きいただきましてありがとうございます。よろしくお願いいたします。

**小林氏** 私は市木造住宅耐震補強推進協議会の発起人で、静岡建築士会の倒壊ゼロ特別委員会にも所属しております。どうぞよろしくお願いいたします。

**望月氏** 私も市木造住宅耐震補強推進協議会の理事をしており、市内で設計事務所を主宰しております。よ

ろしくお願いいたします。

### 静岡県の事業の紹介(静岡県・池谷氏)

静岡県では、木造住宅の耐震化「TOKAI-0」というプロジェクトを行っています。先ほど防災の先進県とご紹介いただきましたが、まだまだ耐震化が進んでいない状態です。平成13年から耐震事業を進めていまして、若干長く活動している中で多少は知識の蓄積などがあるかと思っておりますので、参考になるようなお話をさせていただければと思います。

### 静岡県の紹介

最初に、静岡県の紹介ですが、皆さんご承知のように富士山があり、伊豆、駿河湾、浜名湖等自然に恵まれた土地で、食べ物では海のもの、山のものもありますが、みかんやお茶が有名で、最近では富士宮の焼きそばや静岡おでんなどB級グルメとよばれるものもあります。交通の便も大変良いところで、東京と大阪の真ん中にあり、東西の通行には新幹線や高速道路があり、海は清水港や御前崎港など国際的な港があります。また、来年3月には富士山静岡空港が開港予定です。市町村の状況ですが、平成14年までは74市町村ありましたが、合併が進みまして現在42市町となり村がなくなりました。浜松市と静岡市の2つの政令指定都市があります。その他の状況として、人口、県内総生産どちらも全国10位、また一人当たりの県民所得は全国で3位と多少裕福な県なのではないかと思っております。生産品出荷額は全国3位で、〇〇産業がさかんな県となっています。

### 耐震化事業の創設

次に、耐震化事業の創設、考え方についてご説明させていただきます。東海地震における想定震度ですが、県内のほとんどの場所が震度6以上の危険な状況となっています。

阪神・淡路大震災の死因として84%が建物や家具などによる圧死・窒息死で、地震後15分以内に死亡した確率が92%という状況でした。東海地震の被害想定では、最悪なケースで、死者が4831人、重傷者18654人、中等傷者が85651人、建物大破が131183棟と阪神・淡路大震災とほぼ同様な被害が予想されています。

震災による死者を減らすための最善策としては、住宅・建築物の耐震化を推進して建築物などの倒壊による圧死を防ぐことが最も有効な手段として静岡県では事業を行っています。プロジェクト TOKAI-0 という名前で事業を平成13年度からスタートさせていますが、13年度から耐震診断、14年度から補強助成をスタートしました。当時は県費によって個人住宅の補強助成をするのは初めての例でした。

この TOKAI-0 というプロジェクトは、二つの意味が込められていまして、ひとつは東海地震による死者数のゼロ。もうひとつは建物倒壊による死者数ゼロという二つの願いを込めたプロジェクト名です。

## 事業の目標

事業の目標ですが、一つは、耐震補強で助成した住戸を平成 20 年度までに 1 万戸にしたいという目標があります。平成 19 年 12 月までで、7,611 戸達成していますので、来年度一年かけて 1 万戸を目指したいと思っています。もうひとつは、やや長期的な目標として住宅の耐震化率は、平成 27 年までに 90%に上げたいと考えています（平成 15 年末で 72.9%）。

また、平成 15 年度末の住宅耐震化率の状況ですが、県内の木造住宅 84 万戸のうち、昭和 56 年以降に建てられ安全と考えられる住宅が 46 万戸、また昭和 56 年以前に建てられた木造住宅のうち、安全と考えられるものが 6 万戸、そして危険と考えられるものが 32 万戸もあると推定されています。平成 27 年度末までにその 32 万戸の 90%を耐震化するには、22 万戸を耐震化しなければいけない状況ですが、建替えを 18 万戸、耐震補強を 4 万戸くらいを行わなければ、耐震化率 90%には達成しないような状況です。

## 事業の内容

事業の内容のご紹介ですが、昭和 56 年 5 月以前に建てられた木造住宅を対象に、3 段階の事業で、「1・2・3（ワン・ツー・スリー）で安心住まい」という合言葉で事業を進めています（1 は我が家の専門家診断事業、2 は木造住宅補強計画策定事業、3 は木造住宅耐震補強助成事業）。いずれも対象区域は県内全域を対象とし、密集市街地等に限らず全域で同じような事業を行っています。

まず 1 の我が家の専門家診断事業ですが、電話 1 本の申し込みで、無料で耐震診断を全市町で実施しています。市町が建築士会などに 1 件 3 万円を委託しています。実際に現地で診断する方というのは、県の方で「県耐震診断補強相談士」という登録制度に登録した方に診断を行っていただいています。診断方法としては、建築防災協会の一般診断法で実施しています。

次に、2 の木造住宅補強計画策定事業ですが、補強工事の設計費がだいたい 15 万円くらいかかるということなので、38 市町で 9 万 6 千円を限度に費用の 2/3 を補助しています。

3 の木造住宅耐震補強助成事業は、まず県から一律 30 万円の補助を行い、さらに高齢者と住まれている方には、プラス 20 万円（県 10 万円、市町 10 万円）の補助を行っています（現在 38 市町で実施）。さらに、現在 14 市町で上乗せ補助制度を実施しており、市町によって 10～30 万円の補助があり、3 市では最高 80 万円の補助が行えるようになっています。

## 上乗せ補助制度の状況

補助金を上乗せしている市町の状況として、30 万円の上乗せが、熱海市、磐田市、袋井市。20 万円の上乗せが、富士川市、掛川市、御前崎市、富士市、川根本町。15 万円の上乗せが牧之原市、10 万円の上乗せが、湖西市、沼津市、伊豆市、長泉町、吉田町。以上の 14 市町です。

## 補強事業以外の補助事業

また、県の防災局と市町で耐震補強以外の補助事業として、防災ベッドの購入補助が 4 市、補助額 10～20 万円。家具の固定金具取り付けが 24 市町。耐震シェルターの設置を平成 20 年度から設置費用 25 万円から導入を検討しています。

## 定額補助制度について

静岡県では、定額補助制度で事業を行っていますが、そのメリットとしては、行政として工事費精査の省力化があり、省時間化が図れます。また、工事費を抑えようとするような自助努力が発生するというのが感じられます。また、住民に対して説明するときに、30 万円もらえますよ、という、非常にわかりやすい制度となっていることが考えられます。また、県から 30 万円出すことによって、管内市町が参加しやすい制度でもあります。

一方、デメリットとしては、補助額が少ない、もっと多く補助してほしいという声があります。

## 耐震化事業の概要

静岡県では、診断事業を平成 13 年にスタートさせ、14 年から補強計画策定事業と補強助成事業を行い、平成 16 年から高齢者等の割増と市町上乗せの補助事業を行ってきました。これまでの実績は、無料診断につきましては、51,893 件、補強計画は 8,575 件、補強は 7,611 件行ってきました。

そして診断した結果、建物の耐震評点は 0.7～1.0 が 29.1%、0.7 未満が 60.3%と、約 9 割が倒壊の危険があるという非常に残念な結果でした。

平成 18 年に工事をしたときの工事費は、平均工事費 167 万円、100 万円以下や 150 万円以下が多く、全体として 150 万円以下が 55%という結果です。

## 耐震化事業の推進

富士山をモチーフにした「ふじっぴー」という静岡県のキャラクターが自ら耐震補強をするイラストで平成 15 年度に起用。

## 推進を促進する組織づくりについて

全部で 4 つの団体があり、1 つ目は、静岡県住宅・建築物耐震化推進協議会という会を作っております。行政だけでも民間だけでもこうした事業はなかなか進めることができないため、官民一体で耐震化を進めるために平成 15 年に設立しました。建築士会、建築士事務所協会、建設業協会など関連団体 11 団体で構成されています。県、特定行政庁がオブザーバーとして参加しています。耐震化の普及・啓発を実施しています。広報や講演会、マニュアル作りなどを行っていただいています。技術者派遣制度という制度をつくり、小さい市町で技術者がいない場合などに建築士を派遣する制度です。県が委託契約を結んでいて、必要なときに市町から県を通して派遣する状態で、耐震相談会や出前講座などに活用しています。

2 つ目に、建築士会の取り組みですが、「TOKAI-O 特別委員会」を設立し、士会の各支部に TOKAI-O 支部リーダーを設置していただいている技術的な協力をしていただいています。中でも、耐震診断・補強マニュアルを作成しどのように補強工事や設計をしたらよいか診断や補強のマニュアルの講習会などを実施しています。また耐震診断プログラムを作成し、講習会を行っています。

3 つ目に、静岡県耐震診断補強相談士という資格制度があります。我が家の専門家診断事業はこの資格を持った相談士のみが診断できる制度となっています。資格としては、県内に在住または在勤の建築士（1 級、2 級、木造）、大工（経歴 7 年）に限っています。診断の際には発行された登録証を掲示して診断しています。現在約 4000 人が登録しています。

4 つ目に、平成 14 年から住宅直し隊があります。工事や設計を誰に頼んだらよいか分からないという大工さんや建築士の方と接点がない県民が多くいますので、探していただくためのものです。講習を受けた建築士や工務店が登録し、市町の窓口で名簿を公表しています。現在約 3300 人登録しています。

紙媒体による広報としては、県民日より（県報）や自主防災新聞、新聞広告、各種パンフレット等に掲載しています。毎年 9 月 1 日の防災の日に掲載したり、静岡新聞など。パンフレットで事業の紹介をしています。連絡先や 1・2・3 のアプローチ、診断報告書の見方、耐震リフォームの事例集をわかりやすく掲載しています。ホームページでもダウンロードできます。

テレビ、ラジオの CM は 11 月 20 日～12 月 9 日の間放送しました。新潟県中越沖自身被害者の方に協力いただき、耐震補強の必要性を訴えました。

### 耐震補強済みシール

補強をした住宅に配布して玄関などに貼ってもらい、地域の住民や訪問した方に補強工事を話すきっかけになればと思っています。また、補強が終わっていることがわかることで悪質リフォーム業者の来訪を拒む効果も期待できます。

### 補強工事の幕

補強工事中の住宅の外壁などに表示して、周囲にアピールしてもらえればと思います。

#### J R 静岡駅地下道看板

年に 3 回ほど（7、9、1 月）掲示しました。両面になっていて、表面に無料耐震診断、裏面に耐震補強助成を記載されています。

### イベントによる広報

1) ホームページ 耐震ナビで情報を提供している。

2) 推進キャンペーン

JR の主要駅で 2 回、PR ティッシュを配布して啓発活動を実施しました。ティッシュをもらって無料耐震診断を受けられた方が何人かいました。

3) 「木造倒壊ぶるる」

木造住宅 1/10 模型の加震による筋交いを入れた住宅と筋交いのない住宅の比較実験を行い、県で 20 台購入し、各種講座で活用しました。

### 県と市町の役割分担

#### 1) 制度設計

県内で統一して補助制度を進め、市町が上乗せ補助などの独自部分の制度設計を行うという形で進めてきました。

#### 2) 事業の推進

事業の推進については、静岡県内全域に対する総括的な広報や啓発を行い、各市町ではそれぞれの市町に根ざした個別訪問や相談会などの事業の推進を行って来ました。

#### 3) 補助事業

補助事業としては、市町への補助や国庫補助の取りまとめなどを県で行い、市町が事業主体となり、補助金の交付事務などを担っています。



### ○市町に期待すること

熱心な市町もあればそうでないところもあり、今日来ていただいている協議会の皆さんは非常に熱心に取り組んでいただけていますが、私たちが感じているのは、市長や町長など首長の意識改革が必要だと思います。首長が自分たちのまちを地震に強い町にしようという気持ちで取り組まなければ進みにくいと感じています。平成 16 年度にトップセミナーを開催しました。補助金の事業は手間のかかる事業であるので、職員数を適切に配置することが必要なのではと考えています。

### ○平成 18 年度に診断申し込みのきっかけ調査

平成 18 年度に診断申し込みをされた方のきっかけ調査を行った結果、一番効果のあったものが、行政からのダイレクトメールや個別訪問などによる働きかけが大きかったという意見が 43% ありました。墨田区さんのほうでは、町会を巻き込んで働きかけをしているということで、静岡県のほうでも参考にさせていただきたいと思っています。

～休憩～

望月氏、小林氏

### 焼津市の概要

最初に焼津市の概要ですが、約人口 12 万人の小さな町でございます。産業としては、水産都市であり、かつおの水揚げ量は日本一です。未来への取り組みで、「駿河湾深層水」を新しい資源として深層水を活用した施設や脱塩システム、深層水ミュージ

アム、リラクゼーション施設を整備し、環境、産業、健康に役立ちます。平和への取り組みとしては、昭和 29 年には焼津市の第五福竜丸の乗務員がアメリカの水爆実験により犠牲となり、毎年 6 月 30 日には平和集会を行っています。また、小泉八雲が明治 30 年代の夏に焼津へ家族と滞在したという歴史もあります。



#### 耐震補強に対する市民意識

- 1) 平成 13、14 年度の専門家診断派遣による診断結果として、約 9 割が危険な状態であることがわかりました。
- 2) 倒壊の危険性が高い人の中で補強に前向きと答えた方が 229 人、消極的 46 人、どちらともいえない 678 人。やや危険という診断結果のうち、補強に前向きが 82 人、消極的 10 人、どちらともいえない 200 人という結果になった。

#### 協議会の取り組みの経緯

- 1) 平成 7 年から建築士会、焼津建築設計事務所協会の協力を得て、無料耐震診断の相談を実施しました。
- 2) 建築士会主催の建築フェアの中で無料耐震診断を実施しました。
- 3) 平成 9 年より市民相談室で耐震相談（無料）を含む建築に関する市民相談を実施しました。（建築よろず相談 毎月第 2 火曜日 PM）
- 4) 平成 9 年度より公民館単位で「わが家の耐震診断」講座を建築士会、焼津建築設計事務所協会の建築士と共に実施しました。平成 10～12 各公民館での参加者 計 175 名。
- 5) 平成 12 年 1 月「我が家の耐震診断」の広報掲載による無料診断を実施しました。122 件。
- 6) 平成 12 年 12 月出前診断を建築士会、焼津建築設計事務所協会と共に実施しました。計 22 件。
- 7) 平成 14 年度より焼津市と「耐震診断補強相談士（後にやいづ耐震協会会員有志）」が共同でローラー作戦を実施。ローラー作戦とは、昭和 56 年 5 月以前に建築されたと思われる木造住宅を訪問し、我が家の専門家診断事業の説明、申し込み受付や耐震相談などを実施しました。平成 14 年 12 月～平成 19 年 10 月の間で訪問した件数は、3696 回、回収件数 781 件、回収率は 21.13%でした。
- 8) 木造住宅の耐震に関する相談会  
平成 15 年から 18 年まで開催 347 名

- 9) 焼津市消費生活店事業への参加市民に対し「自立する消費者」として啓発を図ることを目的として市関係部局等から各事業の説明および PR 物を展示。それに伴い耐震補強推進パンフレット等の展示配布および無料相談の実施。
- 10) 平成 18 年より地域防災訓練等で耐震化 PR や相談会を毎年数回実施しています。

#### 木造住宅の耐震補強の推進に向けた調査事業

耐震補強の推進に向けた「マスタープラン」の策定  
平成 14 年度

- 1) 木造住宅の耐震補強推進に向けた「行動計画」の提案
- 2) 焼津市型耐震補強広報の提案
- 3) （仮称）焼津市型耐震補強推進協議会の設立

#### 焼津市における実績(平成 19 年 12 月 28 日現在(累計))

・わが家の専門家診断	2393 戸
・耐震補強計画	429 戸
・耐震補強工事	395 戸

#### 焼津市木造住宅耐震補強推進協議会（平成 15 年 10 月設立）

- ・会員相互の連携の下に、耐震補強に関する様々な情報やノウハウを蓄積し、耐震補強による木造住宅の耐震性工場の必要性を広めるとともに、安価で確実な耐震補強工事を推進し、市民の地震に対する安全性の向上に貢献することを目的としています。
- ・焼津市木造住宅耐震補強推進協議会（略称：やいづ耐震協）は、平成 7 年 1 月 17 日に発生した阪神・淡路大震災で木造住宅の倒壊による犠牲者が大半だったことを踏まえ、木造住宅の耐震性の強化と既存木造住宅の耐震診断の普及と診断技術の向上を目指し、住宅関連業界に幅広く声をかけ、平成 15 年 10 月 21 日に民間の任意団体として発足しました。
- ・メンバー構成は、現在 72 名のメンバーがおり、耐震診断補強相談士協議会、焼津市建築大工業組合、焼津市内建築施工業者の団体の会員によってメンバーが構成されていて、技術的な検討を行う作業グループ（計画設計グループ・施工グループ）。行政にオブザーバーとして協力していただいています。
- ・やいづ耐震協では、「安全な住宅で安心できる生活を」という社会の基本的ニーズに応えるために専門的な知識と技術を持った耐震診断技能者の育成と耐震補強工事の普及を目的達成のための諸事業に取り組んでいます。
- ・やいづ耐震協の会員数は、焼津市内に 72 社（平成 19 年 7 月末現在）
- ・会員  
正会員：耐震診断補強相談士、建築士、焼津市内の建築大工業、建築施工業者（個人会員 64 名、団体会員 8 社 計 72 社）  
今後対応予定一協力会員：建築関係団体、公共団体およびこれに準ずる団体、企業、市民等

- ・情報部・事業部の配置  
広報委員会 所属 22 名  
工法研究委員会 所属 21 名

#### 事業について

- 1) 焼津市型の耐震補強工法を実現可能な技術としていくための活動
- 2) 設計者、補強工事施工者等が交流する場の提供
- 3) 耐震補強に係る情報等を広く市民に公開、提供
- 4) 耐震診断や耐震補強工事の実施について、相談を受ける場の提供や相談会の開設
- 5) 焼津市からわが家の専門家診断事業を受託。  
相談士 50 名 (内、建築士 49 名)  
建築施工業者 (大工業含む) 37 社

#### 活動内容

- 1) 焼津市型耐震補強工法を実現可能な技術にしていくための活動を進めます。
  - ・内容の精査、試験等による検証
  - ・実際の建物を使ったモデル耐震補強工事の実施
- 2) 耐震補強計画・設計者、耐震補強施工者などが交流を持てるような場 (勉強会や研修会等) をつくります。
- 3) 耐震補強に係る様々な情報等を広く市民に公表していきます。
  - ・市民への定期的な情報の提供
  - ・市民を対象として講演会の実施を行います。
- 4) 市民に対して耐震診断や耐震補強工事の実施についての相談を設ける場を提供します。
- 5) その他の活動
  - ・耐震診断・耐震補強相談 (相談士) 窓口の店頭表示し、相談を受けやすくしています。
  - ・のぼり旗の設置
  - ・ローラー作戦 年 2～3 回
  - ・焼津市における各種イベントに参加 消費生活展、サバイバルフェスタ等その他
  - ・市民相談室の耐震補強相談所開設 月 1 回
  - ・インターネット掲示板の開設
  - ・Eメール、FAX による情報連絡
  - ・平成 56 年 6 月以降に建築された住宅の無料耐震診断 (ケースにより有料)
  - ・耐震診断ソフト入力方法講習会
  - ・建築大工組合へ情報交換等協力
  - ・補強工事の安定・安心価格による見積書作成の研究
  - ・耐震補強工事費の分析、見積書標準書式の作成
  - ・新工法による耐震補強の講習会、年 1～2 回委員会は月 1 回程度
  - ・「木造住宅の耐震補強の実務」講習会開催
  - ・自治会等へ耐震補強推進のための出前講座実施予定

- ・工事中の PR 看板設置

最後に、  
会員一同耐震補強事業の推進と協会の発展を通じて、われわれの社会的責任をこれまで以上に果たすことができるかと確信しています。

やいづ耐震協へのアクセスは  
<http://www2.ezbbbs.net/16y-taisin/>

#### 耐震補強 事例紹介

- 1) 在来工法による補強工事  
壁の少ないところに壁を取り付ける場合は、一般的には開口部をはずして壁を取り付ける事例が多いと思いますが、工事費がかなりかさむことがあるので、この例は、サッシを取り外さず、既存の基礎の外側に新しい基礎を加えて補強する例です。
- 2) 天井・壁リフォーム工事  
窓を壁にしてしまうと、採光がなくなってしまうので窓をのこしたまま筋交いを入れるケースがあります。
- 3) 2 回壁面下に壁がない場合  
このよう場合は、不安定になってしまうので 2 階の壁の下に間仕切りを作りたいが、困難な場合が多くあります。このような場合は、壁だけに力がかかるのではなく水平剛性を保ち、下の外壁面に重さを伝えるように合板の補強や火打ち梁、小屋筋交いをいれるようにします。  
また、N50 ではない釘を使った場合の性能の低下について知らない大工さんがいるという日経ビルダーの記事があり、監理者としても気をつけなければいけないところだと思います。また補強した壁の近くの継ぎ手についても、継ぎ手の形によっては、あおられて折れてしまうこともあるので、注意が必要です。  
在来工法の新工法で比較的良いと思うのが、かべ大將 (ダイライト工法) や GH ハイブリッド制震工法など。剛性を硬くして揺れないようにするだけではなく、揺れても揺れを減少することも良く、比較的安価で工期も短いというメリットがある認識を持ちまして、焼津市では、GH ハイブリッド工法を全補強工事の中で約 70% 近く採用しています。この工法だけを推薦するわけではありませんが、こういう事情もあります。  
一般的な工法として外壁をはがさなくても補強する方法と、床材は、一度はがしたものをお施主さんが我慢できる範囲であれば、それをまた使わせてもらうやり方もあります。使えるものは使うという気持ちで比較的安くできるように行っています。  
伝統的な家屋の場合、土台が薄いケースが多いので、床下の土台の補強をします。  
基礎にはアラミド繊維を使った工法。筋交いの取り付けの悪い例など写真にて説明。

## (2)第二部

### ①開会の挨拶



一樹 (司会)

#### 墨田区耐震補強推進協議会(以下\_耐震協)役員紹介

会長 鳴海義一

副会長 瀧澤正徳、岡本郁雄、伊川哲夫

フォーラム 2008 運営委員長 佐久間輝雄

### ②主催者挨拶 鳴海義一

皆さんこんにちは。大変お忙しいところ、耐震フォーラムにご参加いただきありがとうございます。首都直下型、切迫している現在、建築に携わる専門家集団が団結したのが墨田区耐震補強推進協議会でございます。早いものでこの耐震フォーラムも3回を数えることができるものになりました。これも地域や行政の方々のご協力ご理解によるものだと思っております。地元は自分の力で、命とまちを守っていこうと日夜耐震補強推進に力を注いでおりますが、なかなか耐震補強が進まないといったことも現状であります。地域の方々に耐震補強の重要性、必要性を今一度ご理解いただけるよう普及活動をこれからも進めて行きたいと思っております。これからもこの会にご参集の皆様方の力を合わせて町を壊さない活動にまい進していきますので、今一步の皆様のご協力をお願いしたいと思います。本日はありがとうございます。

### ③耐震協フォーラム 2008 運営委員長挨拶 佐久間輝雄

先ほど会長が述べましたようにこの耐震フォーラムは今回で3回目となり、同じこの曳舟文化センターで行っています。昨年は阪神・淡路大震災の被災に遭った東灘区から震災の語り部の大田敏子さんという方に来ていただいて、怖さを訴えていただきましたが、中でも印象的だったのはたくさんのお友達をなくされた中で、命日が一緒になるということが非常につらかったとおっしゃっていたのが印象的でした。私たち墨田の耐震補強推進協議会も、この一年間は特に地域のネットワークを大事にという形でこれからこのフォーラムで、わが町の耐震補強のお話がありますが、そういった地域に根ざしたネットワークの活動に大変力を入れています。幸いなことに、そういったことに共鳴していただいている地元の建築課の高校の生徒さんも無料耐震相談に参加されていることがありまして、命を守るということを墨田らしく、下町らしくぬくもりのある活動に取り組んでいます。結びに、このフォーラムに際しまして、ご後援いただきました国土交通省以下、皆さまにはこの場をお借りしまして感謝申し上げますと共に、また後ろにブースがございますが、今回のフォーラムで協賛していただきました協賛各社の皆様にもこの場をお借りして御礼申し上げます。各社の皆様のパンフレットが資料に入っておりますので後でご覧になってください。



### ④来賓のご挨拶

#### 国土交通省副大臣 松島みどり氏

今日はこの耐震フォーラムを大変熱心に墨田区の建築士の皆さん、建設業会の方々が中心になって開催されたことに敬意を表します。また今回は初めて、私が国土交通副大臣になったことがきっかけでもありましたが、国土交通省の後援させていただくことになりました。建設局の小川審議官も今日は参っていますが、墨田区のこと、国交省でも非常に有名です。ひとつは、木造密集住宅地として、危ない、ということでも有名ではありますが、またその一方で、区の取り組みが非常に熱心であり、区が熱心なだけでなく地元の工務店さんや業界の方が耐震に取り組んでおられる、それも大掛かりなものでもない、小さいものでも声を出して100%よくならなくても、10%でも良くなればよいというそういう発想は、墨田区独自のものであるということで、私ども国交省の中でも墨田区の熱心さは存じております。今日はこのように町会長さんたくさんいらっしゃると思いますが、町会の役員さんたちからPRしていただくことが町の人たちからの安心感につながっていくと思います。診断をして、倒壊の危険があるとなった場合にも助成のシステムというのは、一般のところよりもずっと高いものがございます。この中には、国土交通省の住宅交付金という補助金も入れさせていただいて、補助率を高めるということにも成功している次第でございます。

今日このフォーラムが実り多く、その実りが墨田区中に拡がっていくことをお祈り申し上げます。なお、関係者の方がたくさんいらっしゃると思いますが、建築確認申請、これがなかなか下りないということで、いろいろとお叱りをいただきまして、先ほどの鳴海会長さんや建設業協会の皆さんが私の事務所に2度、3度とお見えになりました。国交省の住宅局にも生の声を皆さんから直接お聞かせいただきまして、一生懸命取り組んでいるところでございます。ただ、少しづれが生じて、今まで建築確認が遅れていた分の結果として工務店、資材メーカーさん仕事につながらなくて大変だという方がたくさんいらっしゃいます。この分につきましては、政府系金融機関、商工中金とか中小企業金融公庫、そして国民生活金融公庫、こういったところが貸し出しを一般よりも有利な条件で行っています。銀行から借りる場合も保証業界の保証料率を普通よりも低い料率で、別枠で借りられるようにすることで、資金繰りについてはそういうことをさせていただいております。また、さきほど申しました政府

系金融機関については建築確認の問題で、返済が大変だということでしたら、窓口でおっしゃっていただきますと返済を有利にする方法もございますので活動できると思います。耐震フォーラムと話はずれましたけれども、この業界上げてということで取り組んでいращやることで、少し述べさせていただきます。どうか、墨田区が先頭を立てて充実した耐震補強の取り組みを進めていけますようにお祈り申し上げます。おめでとうございます。



#### 墨田区長 山崎昇氏

みなさまこんにちは。本日はせっかくの3連休の真ん中というお休みの日にこのようなたくさんの方々にお集まりいただきまして、私からも御礼申し上げます。平素からも皆さんには、墨田区の防災対策などいろいろな面でご協力いただきまして厚く御礼申し上げます。墨田区でマグニチュード7.3の大きな地震が来たと想定した場合に、約5万棟の木造の建物がありますが、このうちの1/4が倒壊する恐れがあるという被害想定が出ています。それは大変な被害があるということで、墨田区ではこれまで燃えないまちづくりを推進してまいりましたが、これにこわれないまちづくりを加えようという形で耐震協の皆さんと共に推進活動を行っております。残念ながら、実績が上がらず、この上がない理由は何かと耐震協のみなさんからお話をいただいているわけですが、ひとつはなんと言っても個人の負担が重過ぎる。今の助成の金額では、なかなか個人が負担するのは難しいといわれています。助成金の引き上げをしなければなかなか実績があがらないといわれています。おおむね3割～4割、補助金をアップすることにしています。一般の方の場合は、50万円を限度に助成していましたが、これを80万円までに引き上げさせていただく、あるいは高齢者の方には70万円が限度額でしたが、これを100万円に引き上げさせていただく、こういったことで個人の負担を軽くし、補強の実績を上げ壊れないまちを実現していきたいと考えております。高齢者の方が大変多く、手続きが大変面倒というお話もいただいておりますので、手続きの簡素化ということも併せて進め、実績を上げていきたいと思っています。

原点として、「協治」ということを申し上げていますが、協治とは、行政だけではなくそれぞれの人たちがそれぞれの役割分担で墨田区をつくっていくということです。主催者として参加されている各団体の皆さんや安田学園高等学校の生徒のみなさんにも勉強させていただきました。そういった輪を拡げ、われわれ

のまちづくりを全国的に推進していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



#### 墨田区議会副議長 桜井浩之氏

本日主催の墨田区耐震補強推進協議会は、一昨年の設立以来、その活動が新聞やテレビなど各種メディアに紹介され、区内のみならず、全国的に注目を集めています。官民が連携を図り、町会、自治会が参加し、地域に踏み出し、そして地元技術者の皆様が業種の枠を超え、町を守るために手を携えての取り組みは議会といたしましても大変心強く感ずるところでございます。また区民の期待も非常に大きいところだと感じております。この後、この活動の様子が紹介されますが、実に多方面にわたり、墨田区のこわれないまちづくりに最前線で取り組んでおられる皆さんならではの力のこもったお話が聞けることと期待をいたしております。本日のこのフォーラムが災害に強い町、壊れないまちづくりをよりいっそう促進することをご祈念申し上げ、またこの催しのためにご尽力いただいた実行委員会を始めご後援、ご協賛をいただきました皆様に心から感謝を申し上げます。本日はお招きいただきましてありがとうございました。

#### 来賓の紹介

⑤活動報告「地域の高校生が耐震診断」  
安田学園高等学校建築科3年木造耐震研究グループ  
榎本吉晃先生、石井朋仁さん、加藤恭平さん

～安田学園建築課が取り組んでいる墨田区への地域貢献～バリューフィールドの具体化



私たち木造耐震研究グループは、4月より墨田区耐震補強推進協議会のご指導の下、木造耐震診断を行うための勉強が準備を重ね、実際の建物について耐震診断を行いました。今回は耐震の勉強を始めてから実務的な耐震診断を行うまでの過程について報告いたします。バリューフィールドとは、安田学園が考える「自ら考え、自ら行動し表現する」というものです。今回の耐震診断はまさにバリューフィールドの精神に則ったも

のと考えます。耐震診断とは、人間でいうと人間ドック、すなわち身体の精密検査になります。昭和56年以前に設計された建築物は現行の基準より低い基準で認可されていたので、このような建物に対して住んでいる人の不安に答え、かつ評価することが大切です。

本校は、墨田区内で唯一建築科が設けられている学校です。私たちが入学したときに、バリューフィールド構想という考え方を叩き込まれました。日ごろお世話になっている墨田区の地域住民の方に対して、少しでも恩返しができたらと思い、木造耐震診断を研究し、実践することにしました。学校で鉄筋センサーなどの道具を使い方を覚え、実際に診断を行う前に練習を行いました。学校の近くに住んでいる先生の自宅をお借りして道具の使い方などの最終チェックを行い、図面の描き方や基礎の鉄筋の部分筋交いの調査など実地練習を行いました。

京島地区は、関東大震災や東京大空襲の被害を免れ、墨田区内でも古い木造住宅が密集している地域です。地元の方々に案内していただき、実際に歩いてみました。思った以上に古い建物が多く、もし大きな地震に襲われたら大きな被害になることが耐震診断の必要性を身にしみて感じました。耐震診断を行った後、補強案を提出することになりますが、その際に現在行われている補強方法を理解しなければいけないので、耐震補強現場と新築現場を見学させていただきました。教科書でしかみていないものを実際にみることができ、さらに柱や筋交い、金物の施工方法の説明を細かくしていただき、大変参考になりました。

墨田区都市計画部の渡会部長の墨田区の耐震への取り組みについて講話をいただきました。墨田区の概要や区として今取り組んでいること、今後の目標などを話していただきました。毎日通っている墨田区のことでしたが、知らないことばかりでしたので、大変興味深く参考になりました。

いよいよ本番です。京島に建っているT邸を診断しました。T邸は、築40年の建物で、施主さんの方にヒアリング調査、内壁調査、外壁調査、床や壁の傾き具合を調査しました。練習とはちがひ、実際に住んでいるところの調査でした。現在生活しているので、家具も配置されているので思ったよりもスムーズにいかず、てこずるところも多々ありました。外壁のひび割れや壁が垂直かどうかを調べました。図面がない部分は実際に測りました。屋根裏の状況、壁の中の筋交いがどのくらい含まれているのかを調べました。耐震診断終了後にテレビ局からの取材を受けました。

現地で調査を行った情報をパソコンに入力し木造耐震診断ソフトを使って解析を行いました。今回使ったソフトはHOUSE-DOCというもので今回の実習に当たり、墨田区耐震補強推進協議会に全面的にご指導をいただきました。このソフトで補強案を作成し、施主の方へ提示します。

その後、私たちが診断を行ったT邸が実際に耐震補強工事を行ったので、見学させてもらいました。見学したときは、道路に面する壁に筋交いを入れていると

ころでした。万が一壁が倒壊したとき、道路を壁でふさいだり、道路を歩いている人を下敷きにしないようにという考え方です。最近、上越、北陸地方で大きな地震があり、多くの建物が倒壊しました。しかし、中には倒壊しなかった建物や倒壊するまでに時間がかかった家があり、無事に避難することができ、命が助かることがあったという例がありました。地震による家屋の倒壊は平和な家庭を一瞬のうちに壊してしまい、命までも奪います。

地震は必ず来ます。そのときにこのような悲惨な事態が起きないでほしいという思いでいっぱいです。私たちは今まで行ってきた耐震診断の授業を通し、安全なまちづくりのお手伝いのできたらいいと思っています。

以上で、耐震診断を行うまでの今年度の活動の過程について方向を終わります。ご静聴ありがとうございました。



それでは、耐震診断を行い、補強案を作るまでの流れの概略を説明します。今回使用している解析ソフトは、構造システム社のHOUSE-DOCというソフトです。このソフトは墨田区耐震補強推進協議会が使用しているものと同じものです。私たち建築クラブは夏休みを利用して両国駅付近のおすし屋さんをお借りして耐震診断を行いました。まず、目視による概観調査、内観調査、壁面のひび割れ、劣化などをチェックします。目視に続いて、道具を使い、鉄筋や筋交いの状況を確認します。この調査は解析データに入力するので、特に念入りにチェックしました。

次に調査物件の概要を入力します。建物の持ち主の方からいろいろと話を聞き、あらかじめ地域の特徴を調査した内容を記入します。内装、外装などの劣化度を入力、劣化していないものは係数が1.0、劣化が著しいものは0.7とって係数が決まります。

平面図を描く際は、壁の構造や筋交いの位置なども記入します。壁を壊すわけにはいかないため、筋交いがあるかどうかかわからないときは、筋交いなし、と記入します。不明なときは、不利な方に描くようにします。

耐震診断にとって壁、柱、床はとても重要です。スケッチした平面図を元に正確に入力します。

すべての入力が終わったら、解析を行います。耐震診断書にはレーダーチャートがあります。これらをもとに弱いところを見極め、補強案を考えます。評点が1.0を超えるように補強するのが一番良いのですが、少なくとも0.7は超えるように補強案を考えます。

この建物は店舗のため、壁を付け足すことは避け、窓の位置を壁にしたり、壁の種類を変えて大きいサイ

ズの筋交いを入れるなどの補強案を考えました。

以上で補強案を作るまでの流れの概略説明を終わります。ご静聴ありがとうございました。



鈴木（司会）

ありがとうございました。耐震に対する意識というものは、すぐに広まるものではありません。何年というスパンをかけて徐々に進めていくものだと思います。そのためにもこのような若い力があるということはいわれわれにとっても大きな励みになります。

#### ⑥耐震協の活動報告---映像---

墨田区に住む大野田葉子さんは、大地震への不安を和らげたいと思い、築70年になるこの家に耐震補強を行いました。どの方法で地震にそなえる補強を行ったのでしょうか。

～阪神淡路大震災の映像～

わずか10秒の間に誰もみだことのない激震が神戸の街を襲いました。この地震でなくなった方は、神戸だけで3651人そのうち少なくとも2940人の方は地震発生から15分の間に亡くなっています。実際には最初の10秒間の間に亡くなっているといわれています。これは一体何を意味しているのでしょうか。死亡原因を分析してみると、窒息、圧死、ショック、損傷、その中でも建物被害や家具の転倒などを原因とする犠牲者が8割以上を占めていることが分かります。倒壊した建物に閉じ込められて死傷された方も多かったそうで、家屋が倒壊し二次災害である火災被害に遭い、また建物全壊率と直後出火率の相関関係をみると沢山倒壊した地域ほど火災も多く発生しています。凶器となってしまったマイホーム、阪神・淡路大震災は、耐震補強がいかに大事かということを教えています。

では、墨田の街の現状はどのようになっているのでしょうか。国の被害想定では、震度6以上の大地震の際、区内では約12,000棟もの建物が倒壊する恐れがあるといわれています。また、東京都が発表した建物倒壊危険度順位によると、30位までのうち10町が区内にあり、東京都の中で墨田区が最も倒壊危険性の高い区となっているのです。

しかし、倒壊の危険性を認識していても耐震補強への様々な疑問があり行動へ結びつかないというのが実状です。そこで墨田区では、耐震補強を行いやすくするため、補助の対象枠を広げました。新しい制度の目玉は二つ。借家に住んでいる人を対象にすること。もう一つは、他の区では震度6でも倒れない評点1.0以上にする補強に対して、墨田区はその垣根を大きく越えて、現状よりも耐震性が向上する場合の補助も認めるといことです。この二つは、画期的な制度として内外から高く評価されています。助成金の額は、簡易改修の場合、65歳以上の補助率は2/3で15万円の自己負担で45万円の工事が可能になります。実は、冒頭

にご紹介した大野田さんは、この助成制度の第一号として補強工事を行った方だったのです。大野田さん：「借家だったので補強工事ができると思っていなかったですね」

耐震補強の手順については、相談、診断、補強計画作成、改修工事の手順で行っていきます。相談については無料で行うことができ、専門家が自宅に伺います。耐震相談で危険と指摘されたら、さらに詳しく診断していきます。そして建物に合った補強に計画し、工法や工期などを説明します。補強工事には二つがあります。ひとつめの「耐震改修」は、耐震強度基準1.0以上にするという工事で、建物全体を補強し、壊れない家にします。もうひとつは大野田さんが利用した新しい耐震改修で、「簡易耐震改修」といい、これは耐震強度の数値が向上する工事で、建物の一部を補強し、外に避難できる通路を確保するなど命を守るための最低限の工事です。耐震改修が命と財産を守る工事なら、簡易耐震改修は、命を守ることを最優先に考えた補強工事といえます。大野田さんはこの簡易耐震改修を選び、生活の大半を過ごす居間兼寝室を補強の中心にしました。引き戸の両側を筋交いで補強。筋交いの設置に伴って、基礎を補強する工事も行いました。縁側と庭の出入り口を支える筋交いにはスチールワイヤーを使った新しい工法が用いられました。安いコストで耐震性を改善しながら採光にも配慮しました。こうして大野田さんは耐震改修によって大地震の際、外へ避難する手段を確保することができるようになったのです。改修にかかった工事費は全部で72万円。そのうち助成金は30万円、自己負担額は42万円でした。大野田さん：「筋交いにして明るくなったし、住み心地もよくなった。一部だけの補強でも精神的にも楽になったかもしれない。」

耐震補強には実はもう一つ重要な効果があります。大地震で家屋が倒壊すれば逃げ道が塞がれるだけでなく、道路側に倒れると地域の逃げ道も塞いでしまうこととなります。しかし、耐震補強をすることで、家屋が倒れることを防ぎ、地域の大切な避難路が確保されるのです。自分の命と自分の街を守るための耐震補強。その推進を加速させようと、地元の建築関係者が立ち上がりました。墨田区耐震補強推進協議会は、地元を愛する建築関係者が集いました。東京建築士事務所協会墨田支部、東京土建墨田支部、墨田建設業協会、墨田建設産業連合会に区内32の町会・自治会、また事務局として財団法人墨田まちづくり公社が参加して設立され、地域の耐震補強を取り組む基盤となっています。木造密集市街地を抱える町会に対して、パンフレットを配布したり、耐震補強の需要を探し出したり、フォーラムを開いて耐震補強の必要性を訴え、意識啓発を図ったり、また、コストを抑えた耐震補強工法の研究など様々な活動を行っています。鳴海会長：「地元は地元の力で守ろうという形で耐震補強推進協議会を立ち上げています。」山極氏：「地元に住んでいる大工さんが、ちゃんと壊れない家を造っているんだ、という意識が住民の皆さんにも生まれてくると思います。」岡本

氏：「家を補強すると同時に街のコミュニケーションも補強して、震災のときに、誰がどこにいるかがわかるようなまちづくりを手伝いたいと思っています。」

関東大震災で甚大な被害を受けた墨田。阪神・淡路大震災から大切な教訓を受けた私たち。大地震はいつ来るかわかりません。地震がやってきたときわかるのは、守られた喜びですか？それとも、失った悲しみですか？

あきらめないで、出来ることから始めませんか？そして、みんなで取り組みませんか？

耐震補強は街を守る地域の課題でもあるのですから。

#### ⑦墨田耐震協補足説明 事務局 岡本博

只今の映像に出演していただいた大野田さんが本日の会場に来てくださっています。(ご紹介)

あと4年で墨田には新タワーが建設されます。今、壊れないまちづくりを推進しなければ、どれだけタワーが地震に強くても、周辺のまちが倒れてしまうのでは意味がありません。

現在、墨田耐震協は、耐震補強を進めるために3つの柱を持って活動に取り組んでいます。

一つ目には、耐震協の今までの活動だけでは、なかなか街の耐震化が進まないことが分かってきました。そこで、町会・自治会の皆さんに今まで以上に協力いただくようになりました。町会長さんから働きかけていただくことによって街のみなさんに耐震に関するアンケートをお願いしたり、耐震説明会を行う機会を増やしていただきました。これからも活動の要として一緒に活動していけたらと願っています。この後、町会のみなさんにはパネルディスカッションでお話を聞かせていただきたいと思います。

二つ目の柱として、教育との連携で、耐震補強を教育の中でしっかりと取り組んでいくことです。先ほどの安田学園高校さんから発表がありましたが、昨年このフォーラムで発表していただいた千葉県立市川工業高校さんにもご協力いただいています。授業に参加させてもらうことでプロである我々のほうが、建築で求められていることを原点に立ち返って学ぶことができるように思います。これからも高校生の皆さんと現場で一緒に考えていきたいと思っています。

そして三つ目の柱は、関連団体との協働についてです。東京いのちのポータルサイト副理事長、平塚・暮らしと耐震協議会の副理事長の木谷さんにパネルディスカッションをとりまとめていただきます。また、今後も高齢者の方からの信頼の厚い福祉関係の団体にも耐震補強を進めるための協力をいただけるよう働きかけたいと思っています。そして、行政との二人三脚で耐震を進めていこうということで、できるかぎり墨田区の皆さんと連絡を密にして意見交換などを行っています。

耐震補強は、建物の問題ではなくて、命の問題です。隣近所のことをよく知った、顔の見える間柄で建物を守る、信頼関係を取り戻すということが安心のまちづくりだと思います。また、きちんとした耐震補強にこ

だわると、なかなか補強工事に踏み込むことができません。簡易改修を生かして、出来ることからしっかりとやっていきたいと思っています。最後に活動している我々が区民の皆さんに直接喜んで頂けることを建築技術者の誇りとして取り組んでいますので、どうか1件でも多く1日でも早く、耐震補強が進むことにご協力いただきたいと思います。ありがとうございます。

ありがとうございました。

#### ⑧パネルディスカッション

『わが町の耐震補強\_木造住宅無料耐震相談の取り組み』

コーディネーター：木谷正道氏

NPO法人東京いのちのポータルサイト副理事長

NPO法人平塚・暮らしと耐震協議会副理事長



パネラー：

寺六中央町会町会長 木村忠氏

梅若町会町会長 丸廣之氏

梅若町会総務 大野勝美氏

八広二丁目親和町会町会長 岩井春治氏

本所二丁目町会町会長 石倉一郎氏

墨田まちづくり公社 課長 中島雄幸氏



墨田区では、無料耐震相談、無料の家具転倒防止金物の取付を行っています。全町会でアンケートを取り、申込みを募りましたが、今日来ていただいている町会のみなさんは、回収したアンケートの約半数を占

めるという大変よく取り組んだ方たちです。では早速、木村さんから伺いたいと思います。

寺六中央町会の取り組みはいかがでしたか？

**木村氏** 私たちの町会は相当危ない地域だと言われていて、町会としても安全で住みよい街にするためにぜひこういう運動に取り組まなければいけないと思ってやっております。取り組みの最初に、掲示板や回覧板で回すだけでは通り過ぎるだけではないかと思い、役員や耐震協と協議しまして、回覧で役員が訪問することを告知しました。そして役員が手分けして町内中を訪問して耐震のチラシを渡しました。その結果、町内550世帯ありますが、耐震相談9件、家具転倒10件と少ない結果でした。

町内を見渡した限りでも、一撃で倒壊しそうな危険な家屋はかなりあります。そして、そういう家には高齢者だけで住んでいることが多いのです。高齢者はこういう案内が回ってきても、どうにかしなきゃいけないと感じてはいても踏み出すことができないです。ただ、安いお金で、ただ潰れないという簡易な補強は需要があると思います。今後も防災訓練などで、その都度運動していきたいです。すべてが危ない家ではないので、特に危険と思われる家に役員が個別に訪問するようなことが大事かな、と思います。

**木谷氏** ありがとうございます。役員が手分けして各ご家庭を回る、こういうことができること自体が、地域の強い力だと思います。しかし、なかなか簡単ではないという一つの課題が出てきているんですね。梅若町会の丸さん、大野さん、実際に取り組まれてどんなところが難しかったか、あるいはどんなところがとっても嬉しかったか思い入れがありましたら教えてください。

**大野氏** 大変だったところは、家族だと思って、町会の役だけではなくて家族だと思って回ってくれることによって安心感を与える、そういう人たちが協力してくれなければこういう活動にはならない。たしかに数は少ないと思うんです。家に上げたくない、来てもらいたくない、だけど命は惜しい、そういう人にも愛想をもって接していかなければいけない。

うちはいいよ、と言うけどお母さんとお嬢さん二人だけでしょ？何か倒れたらどうするの？大野さんちょっと来てよ、といわれても自分も身体一つしかないから、まず家族を守って、それから隣近所へ行く。近所でもすぐには行けないから、まずは家具が転倒しないようにすることが大事です。そして家具転倒防止をするにしても、顔見知りが行かないとできない、区や近所の人回っていても、あの人がいなくて心配、これが現状ですから、まずは隣近所の人やっていたことが大事です。

**丸氏** やはり、回覧板の回し方に問題があると思います。アンケートの回収は封をして回収しています。回

覧板の班長さん一人10件くらいですから、回ってもらって、集めたらいいと思います。新しいマンションに住む人からは耐震に無関心のように全く反応がない状態ですが、家具の転倒防止などはまだまだPRしたほうがよいと思います。あと、町会誌を作ったとき名前は載せても電話番号は載せてくれないことが多く、連絡がとれない問題がありました。

今後取り組まれるところは、個人情報保護に注意することと近所の顔見知り回るということに取り組まれたほうがよいと思います。

**木谷氏** ありがとうございます。墨田区というもともと親密に、すべてを知っているような関係だと思っていましたが、意外に名簿に電話番号を載せることを拒むことが多いようです。オレオレ詐欺などの被害が出たことが原因のようです。なかなか簡単じゃないと思います。そういったことをどう乗り越えていくかが問題です。

それでは、中島さんまとめていただけますか。

**中島氏** 京島二丁目の町会長に一昨日じっくり話を聞いてきました。京島二丁目もぜひこの運動をやりたいということを役員会で確認しました。ただ、世帯数が300ということで、町会長さんが熱心なので、「俺が全部回収しよう」ということになり、1件1件回っています。それで、うまくいかないという印象が強かったです。町会です、というところと玄関は開けてくれますが、話をすると、借家だからとか、人を家に上げるのは嫌がられ、趣旨は分かるけど関われないといったことが多かったようでした。

耐震には、詐欺とかお金とか色々問題が先ほどから言われていますが、幸いにも地元業者の方が安く安全にできるやりかたで考えてやってくれますから、地元のみなさんとタイアップして、耐震活動を進めていけるんじゃないかと思っています。

**木谷氏** すばらしいまとめをいただいて嬉しく思っています。率直に申し上げて、こうして町会の方々が並んでくださって、また他の方々が取り組まれています。こういうことができるということが墨田の強さだと思うんです。街自体はたしかに、なかなか、地震にシ対しては辛い場所でありまして、木造密集地などでは火事で延焼が起きたときに、辛いものがあります。

今墨田区の行政と町会長さんたち、そしてこのフォーラム主催の墨田区耐震補強推進協議会が持っている潜在的な力というもの非常に大きいものがあると思います。これを活かして、どうやってこの墨田区で命と財産を守るかということが問われていると思います。墨田区では借家の方にも助成をするという全国でも本当に珍しい制度を行政が作っています。私の平塚では、建物の所有者にしか助成は行っていません。

また家具転倒防止の取付も1室に限り、無料（通常2万5千円くらいかかる）で行うという制度があります。その両方とも、大家さんの理解を得なければいけ

ないという問題があり、なかなか大家さんに言い出しにくいという事があるようです。そのあたりもなんとかうまくいかないかと思えます。

いずれにしても、町会・自治会というものは、大事なんですね。こうして一緒になって取り組んでいこうという会長さんたちがいるというのは、本当に素晴らしく、すごいなあ、と私感心しております。

とっかかりとして、色々やってみて、まだまだ壁があるけれども、墨田区で行った事業の半数近くがこちらの町会で行ったということで区の中でも先進的な町会です。いくつかの問題点が見えてきたということも含めてぜひ、自分たちの街は自分たちで守った、という結果をぜひ出していただきたいと思えます。

地域に入ると、耐震の問題だけではなく、一人暮らしのお年寄りや高齢だけの世帯が増えてきて不自由も出てくるでしょう。地域の建設関係の事業者のみなさんがそこを支援しながら、行政と共に地域を支えるという力を進める中で、お互いに意見交換して、墨田区の中で良い効果がでるように期待をしています。

さきほど大野田さんの家で紹介されたワイヤーの補強は、平塚で開発されたもので、見通しもよく、風も通ることで評判がよいものです。これまでも耐震の活動で墨田と平塚は大変よいお付き合いをさせていただきました。

墨田は東京の中でも最先端の事例を作ってきました。行政、民間の業者の方々、そして地域の方々が一緒になって、これほど危なかった墨田区がこれほど被害が少なくなったという事例をぜひ作ってください。

私は東京いのちのポータルサイトというNPOの理事もやっておりますが、この墨田区の事例というものを東京全体に伝えていきたい。そして平塚も負けずに頑張りたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

短い時間でしたが、以上で地元の取り組みのシンポジウムを終わらせていただきます。ありがとうございました。



#### 質疑応答

**Q 1** 簡易改修で、評点をどの程度まで上げるといことはあるのでしょうか。

**A 1** 現状よりも良くなれば評点にはこだわっていません。墨田区では古い木造住宅が多いので、1.0まで補強しようとするとな変な工事費になってしまう。そして震度6以上の大地震よりも低い地震が来る確率の方が多いため、震度5強で倒れてしまう住宅を減らすためにも有効な制度です。

やはり、行政は勉強不足になりがちですから、ある

自治体で頑張った制度というのは、どんどん真似しなければいけないと思えます。

**Q 2** 町会の方が今後墨田区でどう広めていこうかと考えているのでしょうか。

**A 2** アンケート用紙でまだ集められていないので、各家庭に訪問して回収したいと思っています。それから、最近は「地震だ火を消せ」から「地震だ身を守れ」というフレーズに変わってきました。この衝撃に耐える家ではなくて部屋づくりというものを町会の皆さんで話し合いを続けていこうかと思っています。

#### ⑨『墨田区耐震助成事業の紹介』

墨田区都市計画部 部長 渡会順久氏

墨田区都市計画部 建築指導課 課長 沖田茂氏

一枚の写真に注目していただきたいと思えます。



これは新潟中越地震のときの写真ですが、建物が倒れて道路が塞がれているところです。多くの場合、この写真で悟られることは、地震の恐ろしさ、木造建物のもろさです。でも、ちょっと待ってください。もう一度よく見ていただきたい。壊れている建物の後ろに壊れていない建物があります。

耐震性のある家を造れば古くても壊れない。壊れない家造りもできるということをこの写真は示しています。

関東大震災以降、地震は地方都市で起こっており、阪神・淡路大震災までは高密度な密集市街地での地震がありませんでした。神戸では20万棟の建物が倒壊し、墨田区が5万棟ですから4倍強の建物が倒壊しました。死者は6千人を超えました。主な死因は、建物の倒壊による圧迫死でした。その多くが高齢者や災害要援護者といわれる方々でした。



これまでの墨田区の地震対策は、昭和53年に宮城県

沖の大地震でブロック塀の倒壊による被害が問題となり、墨田区でもブロック塀対策を行いました。また昭和54年に不燃化促進事業を全国に先駆けて実施した。不燃化立70%を越え、本所地区の延焼火災は防げるようになりました。しかし、向島地区は、古い木造の密集地域が残り、倒壊と延焼の被害が共に危惧されました。平成7年に阪神・淡路大震災が起これ、こわれないまちづくりの必要性が叫ばれ、耐震診断助成が行われたにも関わらず、耐震診断はなかなか進みませんでした。阪神・淡路の10年目を迎えた平成17年という節目の年に耐震改修助成事業を立ち上げ実施しました。これの特徴は表記の通りですが、特に、相談→診断→計画→改修と一連の流れで助成することを念頭に置きました。詳細は後ほど、沖田課長にお願いします。

「すみだ耐震補強フォーラム」も今年で3回目を迎えることになりました。今年は特に、地元の町会・自治会のみなさん、そして地元の安田学園さんの参加をうれしく思います。

さて、話を戻しまして、減災に向けた3つの課題ということですが、燃えない、壊れない、逃げないで済むまちづくりを進めることとなります。

地震が起きたときにまず家具の転倒があり、これにより負傷した場合には逃げることもできず、その後の避難生活にも支障を来します。

ですから、第一にけがをしないで無事であることが大切です。ご自身が元気であれば、お隣近所の方の力にもなれますが、けがをしては逆に助けてもらう側になってしまいます。そこで、耐震補強ということになるのですが、今回はもう少し別の視点からお話してみます。

この図の意味するところは、墨田の木造住宅の密集度合です。赤い部分のところに、木造住宅が密集しています。

では、木造密集地域での火災発生シュミレーションを行います。

火災が起きると、どのような延焼が起こるのかということシュミレーションにみるできるようになりました。もちろんあくまで仮定ですし、概ねの予想です。設定条件は、北東の風5m、ときおり木のざわめきが聞こえる程度の風です。出火します。1時間、2時間、3時間……。といった具合に広がり予測されています。ご覧の通りです。

ご覧いただいてわかるように、延焼防止帯としての幹線道路も1ヶ所に弱い部分があると、突破されてしまいます。これによって火災の火の囲いこみができず、延焼が無限大に広がっていくことがわかります。もちろん、消火活動が届けば消火できますが、大きな災害の中では仮定ができません。そこで耐震補強を点から線、線から面へと広げていかなければならないということになるのです。

家屋の倒壊は、道路を塞ぎ避難の妨げになってしまいます。家屋の倒壊は自己だけの問題ではなく、地域の安全の問題でもあるのです。

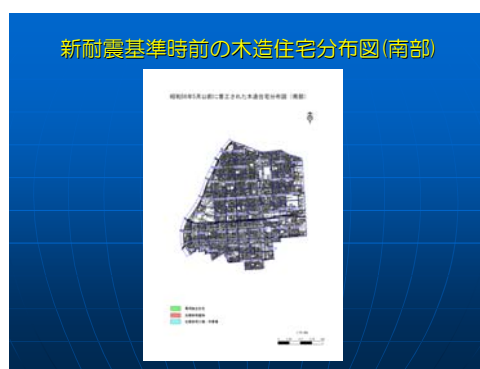
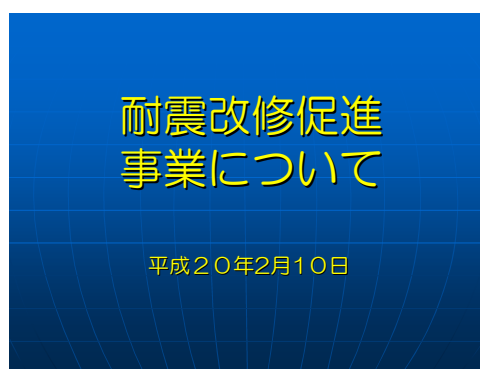
また、倒壊によって、漏電や電気器具、ガス器具等の火災発生危険度が増大します。そこで、避難路線の重点化による、点から線あるいは面による耐震改修が重要となります。

密集市街地では同時多発火災の恐れがあります。そこで、耐震改修にあわせ、燃えにくい防火改修の併用が効果的であると言えます。

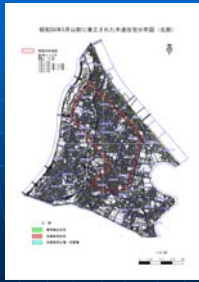
一朝有事の時、力になるのは、遠い親戚よりも近くの他人といますが、隣人や町会、自治会だと思いません。災害は、一人では守れません。地元の皆さんで協力して、わたしたちの命を、まちを守らなければなりません。どうかみなさまの御協力をお願い致します。



□耐震改修促進事業について□



### 新耐震基準時前の木造住宅分布図(北部)



### 緊急対応地区

- ・ 東向島4～6丁目
- ・ 墨田1～3丁目
- ・ 京島2、3丁目
- ・ 八広1丁目
- ・ 八広2丁目1番～52番
- ・ 八広3丁目1番～35番
- ・ 八広4丁目1番～47番
- ・ 八広5丁目

### 新耐震基準時前後の建築物棟数(区内全域)

構造	(旧耐震)		(新耐震)		合計	割合
	～S45	～S56	～S56	S56～		
耐火造	2,524	2,108	4,632	4,486	9,118	18.8%
準耐火造	4,216	1,829	6,045	4,450	10,495	21.6%
防火造	18,601	3,798	22,399	3,545	25,944	53.4%
木造	2,733	132	2,865	189	3,054	6.3%
木造小計	21,334	3,930	25,264	3,734	28,998	59.7%
木造全体に対する割合	73.6%	13.6%	87.1%	12.9%	28,998	59.7%
木造住宅小計	不明	不明	21,898	不明	28,998	59.7%
木造全体に対する割合			75.5%		28,998	59.7%
合計	28,074	7,867	35,941	12,670	48,611	100.0%
建物全体に対する割合	57.8%	16.2%	73.9%	26.1%	48,611	100.0%

### 建築物の耐震化に関する取り組み

- 墨田区では区民の皆さんが安心・安全に生活できる災害に強いまちを実現するために、木造住宅が密集している地域を中心に緊急対応地区を定め、「墨田区民間建築物耐震診断助成事業」に加え、木造住宅の耐震化を段階的に実施できるように平成17年度から「墨田区木造住宅耐震改修促進助成事業」を始めています。

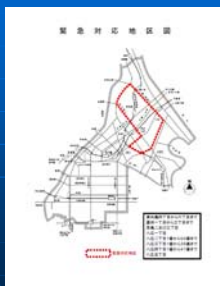
### 緊急対応地域内外の木造住宅の棟数

地区	木造住宅の種類	新耐震以前	割合	割合
緊急対応地区	助成対象となる木造住宅	6,863	23.7%	14.1%
緊急対応地区以外	助成対象となる木造住宅	15,035	51.8%	30.9%
合計		21,898	75.5%	45.0%

### 建築物の耐震化に関する墨田区の取り組み



### 緊急対応地区図



相談

### ■木造住宅無料耐震相談(平成17年10月から実施中)

無料で木造住宅の耐震相談を受けられるように、建築の専門家を派遣します。

## 無料耐震相談業務内容

- ①木造住宅無料耐震相談調査表により聞き取り調査を行います。
- ②簡単な平面図を作成し、簡易耐震診断を行います。
- ③外観の写真撮影を行います。
- ④耐震相談に関する質問にお答えします。
- ⑤区の事業パンフレットをお渡しします。

## ■助成対象経費

- ・耐震改修に要した経費
- ・耐震改修計画作成に要した経費
- ・耐震改修の確認に要した経費
- ・家具転倒防止金物の設置に要した経費

### 診断

#### ■墨田区民間建築物耐震診断助成事業(実施中)

建築物の耐震診断に要した費用の1/2に相当する額を助成します。  
 ※木造は5万円、非木造は50万円、分譲マンションは150万円を限度額とします。  
 ※区内にある昭和56年5月31日以前に着工された建築物が対象となります。

## ■対象となる建築物

- ・昭和56年5月31日以前に墨田区内で着工されたもの
- ・主要構造部（柱や梁など）の過半が木造
- ・延べ面積の過半が住宅

### 計画

#### ■木造住宅の耐震改修計画作成費用の助成(平成18年1月から開始)

耐震改修工事をするための耐震改修計画の作成に要した費用の1/2に相当する額を助成します。  
 ※2万5千円を限度額とします。  
 ※区内にある昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅が対象となります。

### 改修

#### ■木造住宅の耐震改修計画工事費用の助成(平成18年1月から開始)

改修前に比べて耐震性が改善される改修工事に対して費用の一部を助成します。  
 ※区内にある昭和56年5月31日以前に着工された木造住宅が対象となります。  
 ※金体的な改修により耐震の総合評点が1.0以上となる改修工事(耐震改修)と部分的な改修により耐震の総合評点が改善される改修工事(簡易改修)が対象となります。(耐震改修は緊急対応地区のみの助成となります。)

## ■助成金の交付対象者

- ・対象建築物を所有し、かつ、居住する個人
- ・対象建築物に居住する個人で、建築物の所有者の承諾を得ている場合

## ■耐震改修

- ・簡易改修工事  
耐震評価が改修前に比較して向上する改修工事
- ・耐震改修工事  
(財)日本建築防災協会が定めた判定基準で総合評点を1.0以上にする工事

## 助成金の額

助成対象工事等	地 区	助成対象者	補助率	限度額
耐震改修計画作成・確認	墨田区全域	一般及び高齢者等	1/2	2万5千円
簡易改修工事	緊急対応地区内	一般	1/2	25万円
		高齢者等	2/3	30万円
	緊急対応地区外	一般	1/3	15万円
		高齢者等	2/3	30万円
耐震改修工事	緊急対応地区内	一般	1/2	50万円
		高齢者等	2/3	70万円

※高齢者等とは、65歳以上の方、又は身体障害者手帳1級及び2級の方若しくは要の手帳1度から3度の方が住宅に居住する場合をいいます。

#### ⑩『住まいなんでも相談処』の紹介

墨田まちづくり公社まちづくりセンターまちづくり課  
課長 中島雄幸氏



公社がどうして耐震活動に取り組んでいるかといいますと、耐震活動は、実際にやるのは地元の方、工事をやるのは業者の方、促進するのは区です。三者が行えば進むわけですが、その三者の連携、活動の共有が大切になってきます。地元組織や関連業界と連携をとりやすい、そして弾力的な対応や運営がとりやすい、最後に公的な非営利組織で信頼を得やすいという3点があります。

今、まちづくり公社では、住まい何でも相談処の運営、墨田区耐震補強推進協議会の事務局、耐震化意向者の掘起し活動、地域ぐるみの耐震普及活動などの取り組みを行っています。

#### ⑪出展企業紹介

協同組合すみだ建築センター

J：COMすみだ（さくらケーブルテレビ株式会社）

株式会社アンデン東京

構造品質保証研究所株式会社

野島木材株式会社

江戸川木材工業株式会社

J建築システム株式会社

大建工業株式会社

有限会社インサイドシステム

タカラスタンダード株式会社

有限会社山田建築 有志

#### ⑫閉会の挨拶

耐震協 副会長 伊川哲夫

本日はお休みの所多数お集まりいただきありがとうございました。昨年よりも1～2割の入場をいただいたようで大変嬉しく思っております。今年のフォーラムでは、昨年みられなかった町会の皆さんによる活動の報告をいただきました。失礼ながら、皆さんご高齢であるにも関わらずアンケートの回収率が低かったことが悔しいと、それほどまでにご自身の町内を大事に思っておられました。どうぞもう一度町会の皆さんに拍手をお願いします。

また来年は、今年の3倍の実績が上がるように、私

たちと一緒に頑張ってください。よろしくお祈りします。

それから、市川工業高校に続いて、安田学園も頑張ってくれました。来てくれた市川工業高校の皆さん、安田学園の皆さんに拍手。

静岡からも皆さんが来ていただきました。自治体ごとにそれぞれいろいろな問題を抱えていますが、意見交換などをして全国的に広がって行くと思います。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、協賛していただいた各社の皆さん、本当にありがとうございました。

これにて本日のすみだ耐震補強フォーラム 2008 を閉会とさせていただきます。本日は長時間誠にありがとうございました。



(3) 無料耐震相談会／耐震補強のいろいろ展示会

無料耐震相談会



耐震補強のいろいろ展示会

【出展企業】

協同組合すみだ建築センター

J：COMすみだ（さくらケーブルテレビ株式会社）

株式会社アンデン東京

構造品質保証研究所株式会社

野島木材株式会社

江戸川木材工業株式会社

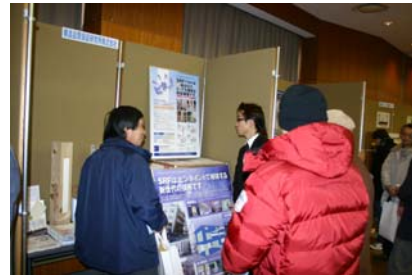
J建築システム株式会社

大建工業株式会社

有限会社インサイドシステム

タカスタンダード株式会社

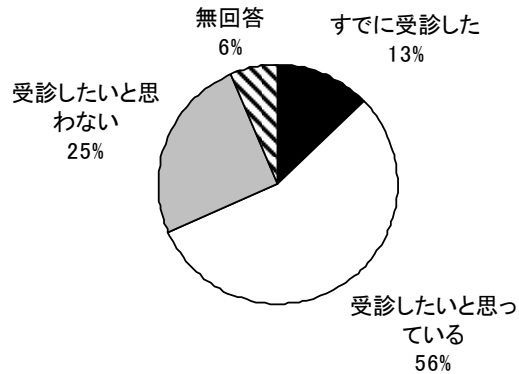
有限会社山田建築 有志



### 3. すみだ耐震補強フォーラム2008 アンケート集計結果

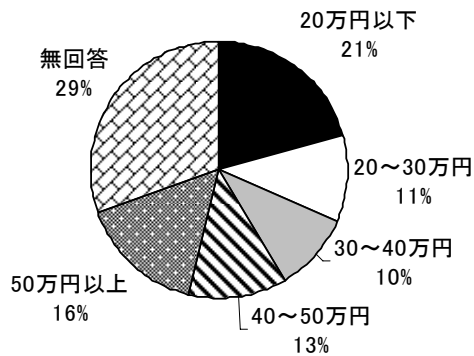
フォーラム当日の参加者へアンケート調査を行い、63名から回答を得ました。

Q1. 今までに耐震診断を受診したことがありますか、また受診したいと思いますか。



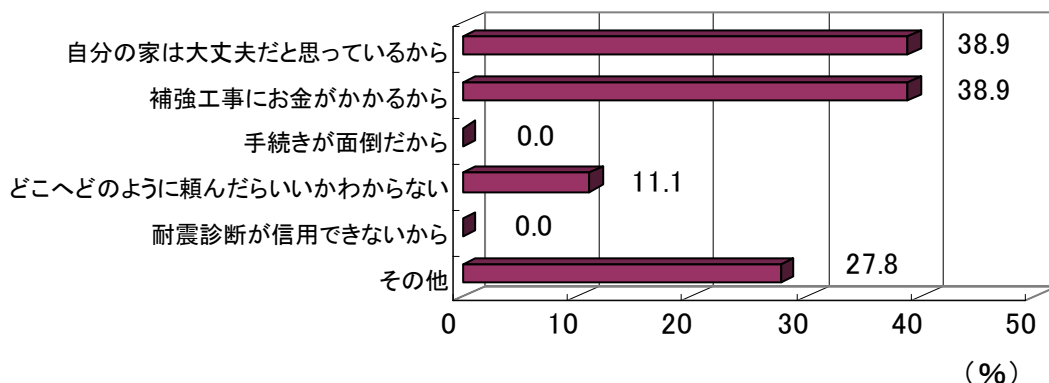
Q1-1. (Q1で1, 2と答えた方)

簡易耐震補強工事を行う場合、どの程度なら費用を自己負担してもよいと思われますか。

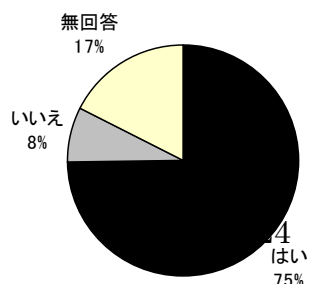


Q1-2. (Q1で3と答えた方)

なぜ、耐震診断を受診したくないと思われますか。次の中から最も近いものを2つまで挙げて下さい。(有効回答18人中の各選択肢に○をつけた人の割合)

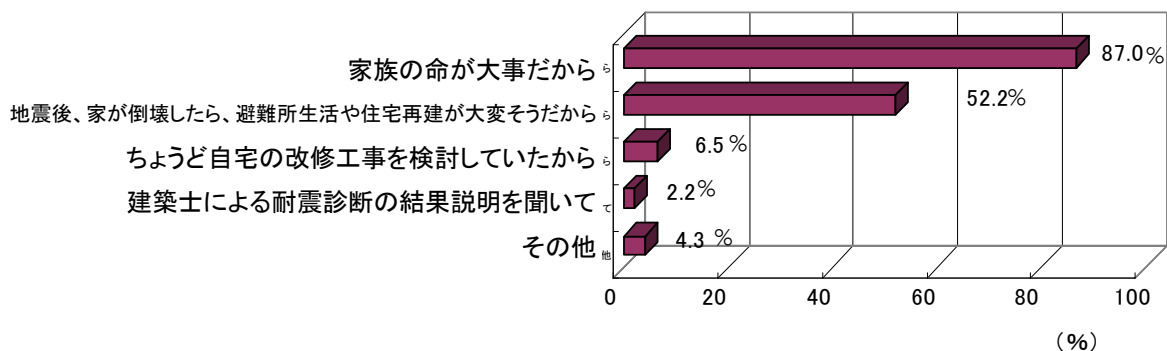


Q2. 耐震診断の結果、「倒壊の恐れがある」と判定されたら補強工事を行いますか。



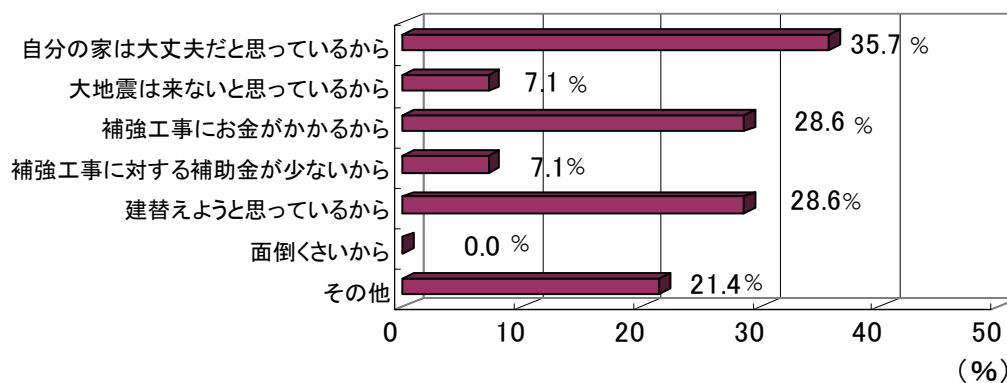
Q2-1. (Q2で1と答えた方)

耐震補強工事を実施する理由は何ですか。次の中から最も近いものを2つまで挙げて下さい。  
(有効回答46人中の各選択肢に○をつけた人の割合)

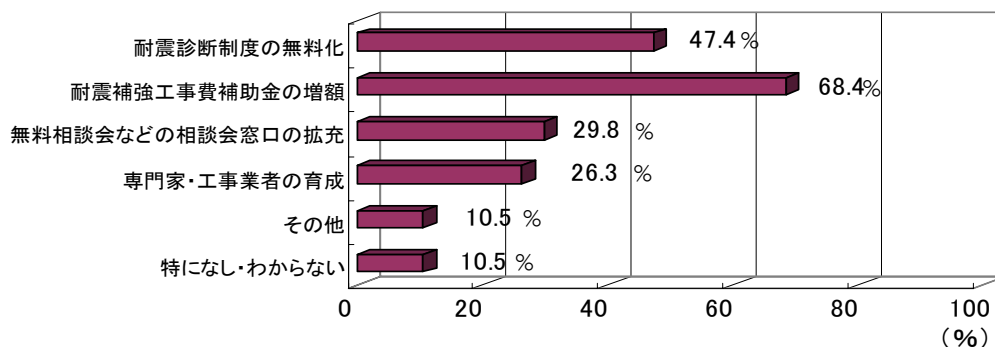


Q2-2. (Q2で2と答えた方)

耐震補強工事を実施しない理由は何ですか。次の中から最も近いものを2つまで挙げて下さい。  
(有効回答14人中の各選択肢に○をつけた人の割合)



Q3. 今後、墨田区が住宅の耐震化を進める上で、最も力を入れてもらいたいと思うことは何ですか。次の中からいくつでも挙げて下さい。(有効回答57人中の各選択肢に○をつけた人の割合)



Q4. ご家庭内で地震や災害のための対策は何かされていますか。

- ・ タンスを止め具で、固定している。(16人)
- ・ していない。(13人)

- ・ 非常食・飲料の確保。(8人)
- ・ 非常用持ち出しバックの整理(4人)
- ・ 家族間の連絡方法の確認。(2人)
- ・ 災害時の避難先等の確認。(2人)

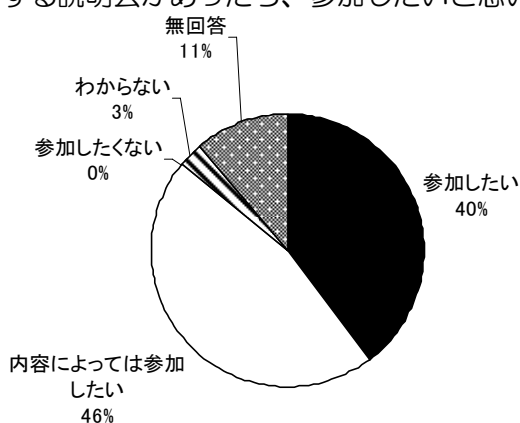
Q5. 全国的に耐震補強が進んでいないと言われていますが、その原因は何だと思われますか。

- ・ 補強するのにお金がかかるから。(26人)
- ・ いまだに、地震の怖さを分っていない人が多い。(4人)
- ・ 家が倒壊した時の危険性を、理解していないのと、自分は大丈夫という気持ちがあるのではないか。(3人)

Q6. 耐震補強を推進するために、自分ができることは何だと思えますか。

- ・ 必要とする人に情報をお伝えすること。(4人)
- ・ 互いに知識を向上させる。(3人)
- ・ 行政への働きかけを強める。(3人)
- ・ 耐震ボランティアで得たことを、もっといろいろな人に伝えていく事。(2人)
- ・ 建物の改修は難しいので、家具転倒防止等に力を入れる。(2人)
- ・ 防災用具やヘルメットを枕元に置いて置く。(2人)
- ・ 火の元の用心(2人)
- ・ 改修しやすい家作り、制度の普及。(2人)

Q7. 耐震補強に関する説明会があったら、参加したいと思えますか。



Q8 本日のフォーラムに参加した理由をお聞かせください。

- ・ 以前から強い関心をもっていた。(12人)
- ・ 現在の取り組みや制度を知りたがった。(5人)

- ・ 建築の勉強として。(3人)
- ・ 自分も耐震を学んでいて、他の学校の活動を知りたいし、他の自治会がやっていることをしりたいから。(2人)
- ・ 町会として出席した。(2人)
- ・ 地震がこわいから。(2人)

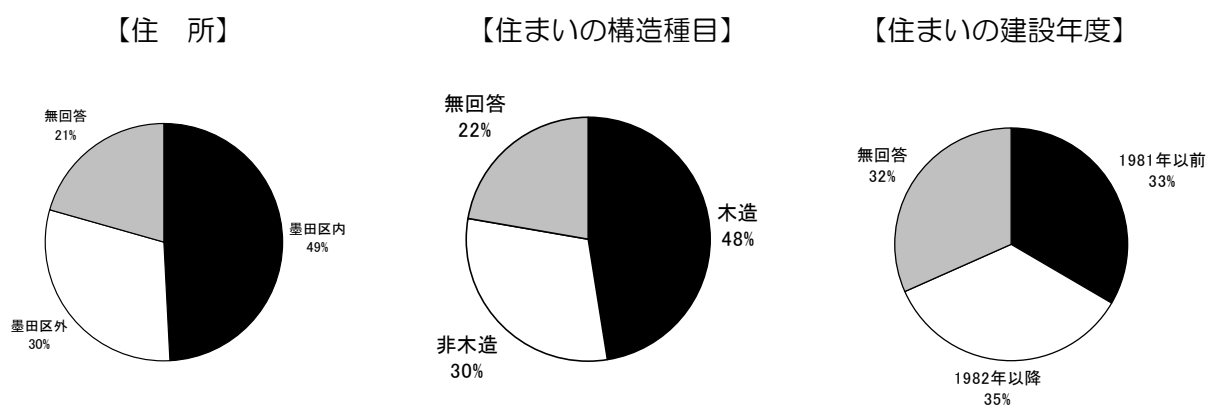
Q9 当協議会に期待することをお聞かせください。

- ・ 墨田区が日本全国のモデルになってほしい。(4人)
- ・ 補助金を多く出して欲しい。(4人)
- ・ フォーラムを継続してもらいたい。(2人)
- ・ 自分の家を耐震改修しても隣の家から出火したら意味がないので耐震化についてもっとアピールしてもらいたい。(2人)

Q10 耐震補強についてもっと知りたいと思ったことはありますか。また疑問に思ったことがあれば、具体的にご記入ください。

- ・ 限られた費用でどこまで耐震改修ができるか、見た目の良い工法 (5人)
- ・ 特にしていない。(2人)

Q11. 回答者属性



協賛企業・団体・個人 各位 様

## すみだ耐震補強フォーラム2008 ご協力の御礼とご報告

平成20年3月吉日  
墨田区耐震補強推進協議会  
会長 鳴海 義一  
会員一同

おかげさまをもちまして「すみだ耐震補強フォーラム 2008」は無事に終了する事ができました。フォーラム当日は満員盛況で、大変良い反響を頂きました。

私たち地元の建築団体が一つになって3回目のフォーラムは、地元町会の皆様にも多数参加頂き、震災から命を守る大切な役割と期待を墨田耐震協に寄せられていることが伝わって来ました。これからも、皆様の期待に応えられるように、一件でも多くの耐震補強を目指す活動を耐震協会員一丸となって進めていきたいと思っております。

本フォーラムが成功しましたことは、墨田耐震協の活動にご賛同頂き、御協賛頂きました協賛企業各社様、関係団体様、ご参加頂きました皆様の協力があったことでございます。書面を借りまして深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

当日は、何かと行き届かないこともあったと思いますが、皆様のご協力により成功することができました。今回のフォーラムにご協力頂いた皆様方に報告書を送らせて頂きました。ご高覧頂ければ幸いです。

今後とも、墨田区耐震補強推進協議会へご支援、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

地震にそなえる、家造り



たいしん君

一日でも早く  
一件でも多く  
耐震補強を目指します